

**研究者：村田亜志美留、千生倫、柳川 亜美、葛生 悠貴、王冠博、
許紘爾、陳昱朱、林庭萱、高山夢果**

(所属：神奈川歯科大学 国際医療ボランティア研究会)

木村 幸司 (所属：神奈川歯科大学 総合教育部)

研究題目：タイ王国チェンライ県における歯学部生の国際保健活動

目的：

現在、世界各地には貧困・医療不足といった理由で基本的な医療供給が困難な国が存在しているのが現状である。我々は、途上国における実際の歯科医療の現状および現地のニーズを把握する必要があると考え、国際保健医療における歯科保健のあり方を模索することを目的とした。

加えて、学生自身が企画することにより自分自身で物事を考える自己解決能力と、世界的な視野で物事を見る力を養うことを目的とした。

対象および方法：

【日程】

・平成30年2月25日（日）～3月4日（日）

【場所】

・タイ王国（バンコク、チェンライ県）

【活動】

・歯科保健活動

Ban pong mon primary school

・日タイ歯科学生交流

Mahidol University, Mae Fah Luang University

【参加者】

・神奈川歯科大学 国際医療ボランティア研究会部員 9名

・Mahidol University 歯学部6年生 4名、歯学部International 4年生2名、1年生5名

結果および考察：

活動は、2月26日から3月2日の5日間で行われた。本活動は、歯学部4年・村田亜志美留、3年・千生倫、柳川亜美、葛生悠貴、1年・王冠博、許紘爾、陳昱朱、林庭萱、高山夢果の計9名が参加した。2月26日から3月1日をタイ北部にあるチェンライ県での保健活動、3月1日、2日をMahidol Universityでの保健活動の発表と学生交流にあてた。

チェンライ県での保健活動は、Mahidol University 歯学部6年生とともにBan pong mon

primary school での歯科検診、保健活動を行った。

Ban pong mon primary school では、MU 学生をサポートしながら、治療を必要とする子を探すべく、検査した。7 割近くの幼児は口腔内に異常はなくとてもキレイであったが、残り 3 割近くの幼児は齲蝕が見つかった。齲蝕が存在した子は多数歯に齲蝕がある傾向がみられた。ここで齲蝕などの疾患が見つかり治療の必要ありになると保護者に連絡がいくようになっているようである。



歌と共に歯ブラシをする小学生



MU 学生と共に歯科検診



紙芝居をタイ語に翻訳

その後、我々神奈川歯科大学の学生が主体となり、日本から持参した齲蝕に関する紙芝居を子供達に読んで見せた。この小学校では歯ブラシの歌と共に決まった時間に歯ブラシをすることが義務付けられており、歯ブラシを習慣づけることが試されていたので、私たちも『歯ブラシの重要性、歯ブラシをしないとどうなるか』を子供にもわかりやすい内容にして披露した。その際、日本語をあらかじめ英語になおしたシナリオを作成しておいたので、MU 大学生に渡し、タイ語に通訳してもらった。紙芝居終了後、こちらの一方的な発信では困るので、話に関するクイズを出題し、クイズ正解者にはかわいい消しゴムや台湾のお菓子を渡した。

結果的には、クイズにはほとんどの子が手をあげてくれ、さらには全員が正答していたことから、こちらが伝えたいことは十分に相手に伝わったのではないかと考えられる。

その後、小学生の希望もあり、皆で AKB48 のダンスを踊り、随分と打ち解けられた。折り紙で折った鶴やけん玉をプレゼントし、日本の文化も知ってもらえた。



手作りの歯ブラシと共に



クイズの時間



けん玉をお披露目

Mahidol University での学生交流は、MU 歯学部 4 年生 2 名と 1 年生 5 名が参加した。我々はチェンライ県での保健活動について、日本の学生生活、日本の保険制度について発表した。学生生活の発表では、CBT と OSCE がどのようなものか、現在の日本の国家試験合格者率はどのくらいなのかという質問を受けた。また、保険制度の発表ではタイの 30 バーツ制度と比較し、違いについて熱くディスカッションができた。MU 歯学部 4 年生はタイの学生生活についての発表をしてくれた。



MU 大学生と質疑応答



日本の学生生活について



チェンライでの保険活動について

今回の活動で、良かった点と反省点が生まれた。

まず、保険活動についてであるが、小学生の紙芝居への反応が思った以上に良かった。歯ブラシを必要とするシーンには手製の大きい歯ブラシを用いたが、今後はより立体的にし、舌側や歯の裂溝など磨きづらいところもわかりやすくするなど、次回はさらなる工夫ができれば、小学生により強く印象付けられるのではないかと思う。

全体を通しては、今回は初めて日本人だけでなく台湾人留学生を引き連れた保険活動であったことから、ディスカッションの際に「タイと日本はどう違うのか、さらに台湾はどうか」と3カ国を比較できたことはとても良かったと思う。MU 学生も日本についてだけではなく台湾について幾度も質問しており、有意義な時間が過ごせた。反省点としては、日本人、台湾人ともに学年が低いことから、未だ歯科の知識が十分ではなく、あちらの質問に完璧には答えられなかったことだ。加えて、英語力の未熟さも痛感した者が多く、保険活動中に度々使用した英単語をまとめ、次回までにはその単語だけでも参加者が覚えて臨めたら良いのではないかと思う。

また、今回の良かった点、反省点などを生かせれば、来年度の保健活動がさらに現地の方々に有意義なものになると思う。

成果発表：（予定を含めて口頭発表、学術雑誌など）

- ・ 神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会事業報告書掲載・発行
- ・ 神奈川歯科大学広報 原稿投稿
- ・ 歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）総会 発表
- ・ 神奈川歯科大学学会 発表
- ・ 神奈川歯科大学学園祭 発表